



# 青少年赤十字岐阜

JUNIOR RED CROSS GIFU 2021

編集・発行



日本赤十字社 岐阜県支部  
Japanese Red Cross Society

〒500-8601 岐阜市西部中島2-9  
TEL 058-272-3561  
<https://www.jrc.or.jp/chapter/gifu/>

赤十字の活動は、皆様からお寄せいただく活動資金によって支えられています



## ～3つの実践目標～

- ・生命と健康を大切にする「健康・安全」
- ・人間として社会のため、人のためにつくす責任を自覚し、実行する「奉仕」
- ・広く世界の青少年を知り、仲良く助けあう精神を養う「国際理解・親善」



## 「気づき・考え・実行する」 子どもたちがつくる未来

岐阜県青少年赤十字指導者協議会

会長 田代 学 (揖斐郡大野町立東小学校)

令和2年3月26日、日本赤十字社新型コロナ感染症対策本部により作成された「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう!」が公表されました。突然の休校指示を受け、休業中の自宅での学習をいかに進めるのか、再登校後の校内感染をいかに防ぐか、その判断と準備で余裕のなかった時期です。そんな中で手にした前述の資料から「不安・恐れの感染」「嫌悪・偏見・差別の感染」という、新型コロナ禍における学校運営に必要な視点を得ることができました。

案の定、学校再開後の児童アンケートの結果には、著しい自己有用感の低下が見られました。「不安・恐れ」からくる行動の自粛、精神的な萎縮がその原因だと思われます。また、修学旅行など行事の実施にかかるわって、保護者間に危機意識の大きな差が見られました。「偏見・差別」までは至らないまでも必要のない対立が生じる状況が作り出されていることを感じました。

新たな視点を得ていたことにより、これらの事態を予め想定した対応ができたという点で、私にとって冒頭の資料は価値あるものであったと考えています。

WHOによれば、人間の命を脅かす人獣間感染症事例は、今後も増えていくと予想されています。未来において今の子どもたちが新たな感染症に直面した時、他を避け、いたずらに感染予防グッズを買い占め、危機感の差から対立し、狭い視野の自分勝手な考え方で他を批難するだけの生活を送ることのないよう、今を考えていく必要があります。

本校であった出来事です。友達にかけられた「ぽかぽか言葉」を投稿してもらい紹介する取組を児童会が行いました。例年、行っている活動です。ただ例年と違ったことがありました。記入場所、投稿ポストが校内のあちこちに設置されていたということです。

「コロナやから余計にたくさん的人に書いてほしいんです。でも、密になるとあかんで増やしたんです。」そう私に語る子の顔は、まるで自分がコロナを制したヒーローになったかのように誇らしげでした。

「人のよりよいかかわり」を生み出すために、ちょっとした気づきから、子どもなりに考え、実行した小さな出来事です。しかし、こういった姿を生み出し、育てていくことこそが、真に感染症の脅威を克服する社会につながるものであると実感した瞬間でした。

「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」そして「気づき」「考え」「実行する」

今後も青少年赤十字の指導理念を意識し、学校運営を見直していきたいと考えます。

最後に、例年とは異なる対応が必要とされる中、県内各種学校をご支援いただいた日本赤十字岐阜県支部をはじめとする関係者の皆様に心より感謝を申し上げると共に、青少年赤十字活動がより活発に展開されることを祈念いたします。

## 1 赤十字社について

赤十字は、アンリー・デュナン(スイス人:第1回ノーベル平和賞受賞者)が提唱した「人の命を尊重し、苦しみの中にいる者は、敵味方の区別なく救う」ことを目的とし、世界192の国と地域に広がる赤十字社・赤新月社のネットワークを生かして活動する組織です。

日本赤十字社はそのうちの一社であり、1877年の西南戦争をきっかけに佐野常民らが中心になって設立されました。そして、現在では、世界各国の赤十字と手をつなぎ、赤十字の精神である「人道・博愛」の使命を実現するために、主に以下の①～③

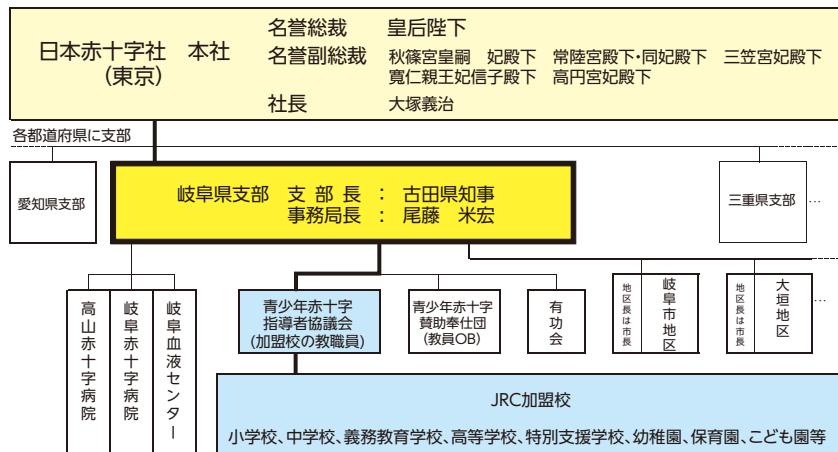
の柱のもと、国内外における災害救護をはじめとし、苦しむ人を救うために幅広い分野で活動しています。

- ①いのちを救う 国際活動、国内災害救護活動、医療事業、血液事業、救急講習等
- ②せいかつを支える 社会福祉事業、赤十字奉仕団
- ③ひとを育む 青少年赤十字、看護師等養成



## 2 青少年赤十字(JRC:Junior Red Cross)について

- 青少年赤十字は、第一次大戦(1914～1918)時にカナダ・アメリカ・オーストラリアの児童・生徒たちがヨーロッパの戦場となった国々の少年・少女や傷病者を慰めるためクリスマスカードや手紙を贈ったり、学校には文具、傷病者には下着や副木・つえなどの援助を行ったりしたことに始まります。
- 第一次大戦終戦の翌年(1919.2.1)、アメリカ・イギリス・イタリア・日本・フランスは、第一次世界大戦の経験から、「赤十字が戦時の救援ばかりでなく、平時においても、災害救護、衛生、社会福祉、看護、青少年赤十字などの事業を行うべきである」と赤十字社連盟の創設を呼びかけました。そして、第2回赤十字社連盟総会(1922)において、各国の赤十字社に対し、青少年赤十字の活動を積極的に行うよう勧告されました。
- 日本においては、日本赤十字社や文部科学省のバックアップを受け、現在の滋賀県守山市立守山小学校(当時、守山尋常高等小学校)校長の井上氏が中心となって、**大正11年(1922)に日本で最初の少年赤十字団**が結成されました。(世界においては、14番目の加盟になります。)その翌年、大正12年9月1日(1923)に起こった関東大震災での被災者に対し、食糧や文房具などの支援を行ったことが最初の活動と言われています。
- 昭和23年(1948)には、活動するメンバーが小学校高学年から中学校、高等女学校、青年学校にも拡大されてきたこともあり、「青少年赤十字」と名称が統一されました。
- 現在では、児童・生徒が赤十字の精神に基づき、青少年赤十字は、将来を担う青少年が赤十字のことを正しく理解し、進んで赤十字運動に参加してもらい、青少年の一人一人が世界の平和と人類の福祉に貢献できるように、①「健康・安全」②「奉仕」③「国際理解・親善」の3つを「実践目標」として掲げ、学校(園)や日常生活の中で、望ましい人格と精神を自らつくりあげることを目的としています。
- 岐阜県においては、令和2年度末現在、649校(園)が青少年赤十字に加盟しており(右頁の表を参照)、大変多くの子どもたちが青少年赤十字のメンバーとして活躍しています。
- 日本赤十字社岐阜県支部においては、教職員対象の指導者講習会や児童生徒対象のリーダーシップ・トレーニング・センターの実施、国際交流事業などを実施して人材育成を行うと共に、防災教育推進校、研究推進モニター、青少年赤十字100周年事業推進校を指定し、学校における青少年赤十字活動の推進のお手伝いをさせてもらっています。



### 青少年赤十字の目指しているもの

- ①いのちと健康を大切にする力を育てる
- ②社会的に弱い立場にある人たちの手助けができる力を育てる
- ③世界が抱える問題に关心をもつ力を育てる



令和4年度は青少年赤十字創設100周年

## 1 青少年赤十字の県内加盟状況について

### ● 加盟状況

令和2年度、県内の公・私の小学校の加盟率が100%、公立中学校100%の加盟率を達成しました。

今後は、私立中学校への働きかけや、高等学校の加盟を促進していきます。

### ● 新規加盟校 (全26校)

岐阜県全体		加盟率 649
加盟校(園)数		
内訳	幼稚園、保育園等	45
	小学校	公立 364 私立 2
	中学校	公立 175 私立 4
	義務教育学校	公立 3
	高等学校	公立 26 私立 8
	特別支援学校	公立 22 私立 0
		100.0%
		※

小学校(10校)			
中津川市立坂下小学校	中津川市立高山小学校	高山市立江名子小学校	高山市立久々野小学校
中津川市立付知北小学校	中津川市立蛭川小学校	高山市立岩滝小学校	高山市立本郷小学校
		高山市立丹生川小学校	高山市立柄尾小学校
中学校(13校)			
中津川市立第二中学校	中津川市立阿木中学校	高山市立日枝中学校	高山市立丹生川中学校
中津川市立苗木中学校	中津川市立加子母中学校	高山市立松倉中学校	高山市立清見中学校
中津川市立坂本中学校	中津川市立付知中学校	高山市立中山中学校	高山市立北稜中学校
岐阜聖徳学園大学附属中学校			
高等学校(3校)			
岐阜市立岐阜商業高等学校	岐阜県立大垣西高等学校	岐阜聖徳学園高等学校	

## 2 各種会議・研修会の実施状況

※コロナウイルス感染拡大防止の為、多くのものが中止になつたりWeb会議形式になつたりしました。

令和2年度			
本社主催	青少年赤十字支部担当者研修会	Web会議 (4/8)	
	青少年赤十字リーダートレセン指導者養成講習会	中止	
	青少年赤十字全国指導者協議会総会・研修会	Web会議 (9/11)	
	全国青少年赤十字賛助奉仕団協議会総会	中止	
	指導者協議会会長・支部担当者研究会	Web会議 (11/17)	
	青少年赤十字研究会(指導主事)	Web会議 (R3.1/8)	
	青少年赤十字スタディ・センター	Web形式 (R3.3/20)	
支部主催	岐阜県青少年赤十字賛助奉仕団第1回役員会	対面 (6/16)	
	岐阜県青少年赤十字賛助奉仕団総会	書面表決	
	岐阜県青少年赤十字指導者協議会第1回役員会	対面 (6/19)	
	岐阜県青少年赤十字指導者協議会総会	書面表決	
	岐阜県青少年赤十字指導者協議会 第2回役員会	書面表決	
	岐阜県青少年赤十字賛助奉仕団第2回役員会	対面 (2/25)	

## 3 授与関係

### ① 銀色有功章 (加盟15年以上の加盟+積極的な活動)

令和2年度			
山県市立伊自良中学校	17年	山県市立伊自良北小学校	16年
北方町立幼稚園	17年	瑞穂市立牛牧小学校	16年
		東白川村立東白川中学校	16年

## 4 各事業

### ①青少年赤十字マーク入りテントの寄贈

令和元年1月～12月迄の間に青少年赤十字に新規加盟した学校(園)を対象に、青少年赤十字マーク入りのテント(3m×3m)を、本年7月中旬～下旬に寄贈しました。

今回は、令和2年7月17日(金)に代表校として中津川市立南小学校において贈呈式を行いました。



▲中津川市立南小学校の運動場にて



▲下呂市立竹原小学校の児童代表に授与

### ②青少年赤十字旗の贈呈

例年は、青少年赤十字指導者協議会総会の中で代表校に贈呈しますが、本年度は、新型コロナウイルス拡大防止のため、青少年赤十字指導者協議会総会が書面表決形式になったため、新規加盟校に旗一式を持参しました。

新規加盟代表校として、令和2年9月28日(月)に下呂市立竹原小学校において贈呈式を行いました。

### ③岐阜県赤十字有功会 図書贈呈式

子どもたちに豊かな心を育んでもらうことや、赤十字について知つてもらうことを目的として、岐阜県赤十字有功会から青少年赤十字加盟校649校の内、令和2年度贈呈対象校28校に図書を贈呈しました。

令和3年2月9日(火)、県内受領校を代表して中津川市立高山小学校で贈呈式が行われ、代表委員長の林新大さん(6年生)、図書委員長の青木笑子さん(6年生)に、有功会々員を代表して(株)十六銀行 中津川支店長 龜山英孝様から図書と図書券が贈呈されました。

代表の児童からは、「この本をみんなで仲良く大事に読みます。」「図書カードを使って本が好きな子が増えるようにします。」と、お礼の言葉がありました。



▲小学生向け図書 ▲中高生向け図書



▲中津川市立高山小学校 校長室にて

## 5 加盟校への情報提供(広報活動)

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、多くの活動を行うことができませんでした。

そこで、日本赤十字社が企画制作したコロナウイルス感染拡大防止等に関する指導資料や映像データ等をメールで加盟校に配信をしたり、加盟校の児童生徒がマスクを作つて施設等に寄付をした取組等について、県下の加盟校に紹介したりするなど、積極的に情報提供を行いました。

その結果、児童生徒一人一人がコロナウイルス感染拡大防止のため、色々な課題等に「気づき」その課題に対して自分は何ができるかを「考え」、実際に「実行する」といった力を育むことができました。

- 4月23日 新型コロナウイルス感染症に関するプレゼン教材配布
- 4月30日 ①「ウイルスの次にやってくるもの」(YouTube)  
②「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう!  
～負のスパイラルを断ち切るために～」(pdf資料)  
③『赤十字NEWS 4月号』
- 5月18日 新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう(pdf版を動画に)配信
- 6月 3日 『赤十字NEWS 6月号』消毒に関するポイントを配信
- 6月 4日 熱中症対策についての資料(マスクをしていると危険)を配信
- 6月 9日 『大雨のときにはどう逃げる』(気象庁提供)を配信
- 6月23日 各学校独自の活動例を紹介(マスクを作つて寄贈等)
- 8月19日 『第2波非常事態』、感染を拡大させないためのキーワードとして、「学校」が挙げられているのを受け、4月の資料を再送
- 9月16日 令和4年度の青少年赤十字100周年に向けてロゴマーク募集
- 12月 7日 「新型コロナウイルス“差別・偏見をなくそう”プロジェクト」の啓発動画等の活用について紹介
- R3.1月 4日 「赤十字だより ぎふ」に過去3年間のモニター校等の実践を掲載・配布
- 1月末～ 新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう!の冊子を希望する加盟校の子どもたちや保護者に対し無料配布(287校(園)、約5万冊)
- 2月初旬 3月11日 『赤十字NEWS 3月号』東日本大震災、「あの日」から赤十字10年を配信

## 6 青少年赤十字加盟校のメンバーの「気づき」、「考え」、「実行」した姿

(1)コロナ禍の中、青少年赤十字加盟校の皆さんが周囲の様々な問題に「気づき」、自分が問題解決のために何ができるかを「考え」、自分から進んで人の役に立とうと「実行」できた姿の一部を紹介します。



### ①マスクを作つて寄贈した姿

○多治見市立陶都中学校の小谷実夢さん(中3)は、「自分に出来ることで、周りの人たちを支えよう。」という気持ちで手作りマスクを作ったそうです。自作した50枚のマスクは、使う人のことを考えて、サイズが分かるようにした上で、一つ一つ丁寧に包装して、多治見市の社会福祉協議会に寄贈されたそうです。



○笠松町立松枝小学校の桙野祥瑚くん(小4)、楓夏さん(小3)、真奈美様(母)の3人は、人のために何か役に立つことをしたいということを考え、学校が休業中に手作りマスクを50枚作つて、学校の先生方に寄贈されたそうです。マスクを受け取つた先生方は、この素晴らしい取組に感激され、ゴールデンウイーク中に先生方も手作りマスクを作成し、学童クラブの指導員の皆さんに寄付する活動に繋がつたそうです。

○各務原市立稻羽西小学校の草分こはるさん(小6)と明直くん(小4)の2人が、学校休業中に作った手作りマスクを地域のデイサービスへ寄付しました。デイサービスから感謝状がとどきました。

○美濃加茂市立古井小学校の卒業生の山口天衣和さん(中1)は、臨時休業期間中に自分に何ができるかを考え、マスクが不足していることを心配し、新1年生のためにマスクを作ることを決めました。自宅に余っていた布を使い、約1ヶ月間をかけて、一人でこつこつ手作りして、150枚のマスクを寄贈しました。この手作りマスクは、4月7日の入学式後に新1年生に配付され、現在も大切に使われているそうです。

### ②『ウイルスの次にやってくるもの(日本赤十字社制作)』を視聴して

○神戸町立下宮小学校では、2年生以上の児童が『ウイルスの次にやってくるもの』を視聴しました。授業後には、「自分に今できることは、医療関係者に迷惑をかけないために、感染予防をすることだと思います。」「感染した人に対して差別したり、嫌悪感をもつたりしないようにすることが大切だと思いました。」といった感想をもちました。



○七宗町立神渕小学校では、日本赤十字社制作の『ウイルスの次にやってくるもの(YouTube)』を使って4~6年生の児童が、差別を生まないことやお互いをいたわりあうことを学習しました。「新型コロナウイルスは怖いけれど正しく恐れて、みんなで乗り越えることができるようにお互いを大切にいたわりあいながら終息まで歩んでいきたいです。」といった感想をもつことができました。

○垂井町立不破中学校では、日本赤十字社が制作した「ウイルスの次にやってくるもの」を使って、公正・公平や人権などについて生徒の皆さんと考える授業を行つもらいました。

- ・生徒に指導を行うため、先生方が事前に研修を行い、指導内容についての共通理解を図られました。
- ・生徒の皆さんには、主体的に自分の考えを出し合い、お互いの考えを知ることによって、新型コロナウイルス禍における人権意識について深い学びが出来たのではないでしょうか。

### ③コロナウイルス感染拡大防止のための環境整備

青少年赤十字に新規加盟したときに寄贈させていただいたテントを、新型コロナウイルス感染拡大防止のためにも有効に活用していただいておりとても嬉しく思っています。



○恵那市立恵那西中学校においては、テントの周りを風通しのよい遮熱カーテンで囲い、検温場所や待機場所としてテントを活用されているそうです。

○各務原市立稻羽西小学校においては、日差しを遮断して「熱中症対策」、雨が降っても濡れない「梅雨対策」をしながら、新型コロナウイルス感染予防の手洗い場用にテントを活用されているそうです。

## ④新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう!の冊子を活用した実践例

### 岐阜県立岐阜高等学校(生徒会)

この冊子を用いて、顧問の先生の指導を受けながら、生徒会としてできる感染対策の呼びかけについて考えました。執行部の生徒による議論では、「なぜマスクが必要なのか」という点について、「マスクの効果の科学的データを示すと、皆が理解しやすいのではないか。」とか「マスクは相手がしてくれているとこちらも安心できる。マスクは相手への“思いやり”でもあることを知らせたい。」といった意見が出されました。また、負のスパイラルを断ち切るために、不安を煽らず、新型コロナウイルス感染症に関する“正しい知識”をもつ重要性も再確認しました。



### 笠松町立下羽栗小学校

『新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう!』については、下羽栗小ホームページでも紹介していただきました。

「保護者の関心も高く、非常に素晴らしい内容でした。また、本校児童に陽性反応が出たときには、本人やご家族の気持ちを考えると心が痛みましたので、登校再開した日に全校一斉に冊子を全員で見て、もう一度仲間をいたわる大切さを語りかけることができました。」と、校長先生からのお言葉もいただきました。



### 中津川市立苗木中学校

令和3年1月20日に全校生徒を対象に『新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう!』の冊子と映像教材などを使用し、学習をしました。冊子や映像を見て、グループ交流をし、自分にできることなど自分の意見を考え交流し合いました。  
差別や偏見について知っていること、不安なことは?

- ・自分がかからないか不安である。
- ・入試が受けられなくなるかもしれない。
- ・コロナではない病気で休んでいただけで、コロナと決めつけられる。
- ・いつまでこの生活が続くのか不安。歓声をあげたり、ハイタッチがしたりしたい。
- ・医療機関の仕事をしていると差別される。



差別や偏見をなくすために、自分には何ができるか?

- ・感染症対策をして病気にならないようにする。生活リズムを整えて免疫力を高める。
  - ・確信のない情報は捨てる。ネットの情報をそのまま信じず、他の記事なども見て、信憑性の高いものを信じたい。また、うわさのような情報を拡散しない。
  - ・周りの人が自分の体調について、言い出しつくらなど、相手を思いやる気持ちをもつ。
  - ・医療関係の人に敬意やねぎらいを示したい。
- など、色々な考えを交流することができました。

### 多治見市立南ヶ丘中学校

学校独自で作成した道徳指導案に沿って、全校で冊子を使って学習しました。生徒や教員からは、「内容が大変分かり易い冊子で使いやすかった。」とか、「自分たちは差別や偏見を絶対にしてはいけないし、もしそういうことを言う人がいたら積極的に注意をする。」といった感想を話していました。



### 岐阜市立長森北小学校

保健体育委員会の子どもたちが、『新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう!』を読んで感想やメッセージカード書きました。

給食の時間には、保健体育委員会が『新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう!』について放送しました。



## (2) 「東日本大震災から10年プロジェクト「オンライン語り部」活動」に参加した学校

東日本大震災から10年が経ちました。この震災を風化させないため被災者の経験談を全国各地に届けるオンラインの講話会を、被災地の日本赤十字社宮城県支部の主催により青少年赤十字加盟校を対象に実施されました。

本県加盟校から多くの学校が参加しました。当日のライブ配信授業では、被災された方がその当時に体験されたことなどを語られ、児童生徒の皆さんには真剣な顔をして話に耳を傾けていました。

### <参加した青少年赤十字加盟校> 延べ25校

1月13日：北方町立北方中学校、恵那市立山岡中学校、高山市立東山中学校、高山市立北稜中学

1月19日：岐阜市立徹明さくら小学校、美濃加茂市立山手小学校、高山市立栃尾小学校

1月27日：山県市立いわ桜小学校、郡上市立大和第一北小学校

1月29日：岐阜市立岐阜清流中学校、飛騨市立神岡中学校

2月 4日：羽島市立中島小学校、美濃市立美濃小学校

2月10日：岐阜市立徹明さくら小学校、羽島市立中島小学校、海津市立西江小学校、恵那市立大井小学校

2月18日：山県市立高富小学校、揖斐川町立谷汲小学校、郡上市立大和第一北小学校、郡上市立小川小学校、多治見市立昭和小学校

2月26日：揖斐川町立春日小学校、関市立洞戸小学校、美濃加茂市立伊深小学校

### 岐阜市立徹明さくら小学校の取組

日本赤十字社のプロジェクトに参加し、今年の3月11日で10年を迎える東日本大震災の被災地、石巻市の「語り部」さんとリモートで直接、お話を聞かせていただく機会がありました。

実際に被災された「語り部」さんが涙を浮かべながら話される当日の様子、被災地の今の様子、残された人々の想いは、当事者でなければわからないものであり、その生きた言葉は子どもたちの心に響いたと思います。とても貴重な経験を共有することができました。その様子は、宮城県の新聞にも本校の代表の言葉と共に掲載されました。最後に、2人の児童が、宮城県のテレビ局や新聞社の取材をオンラインで受けました。

防災について、今後も子供たちと一緒に考え続けていきたいと思います。



<岐阜市立徹明さくら小学校のHPより>



<キックオフの会の一コマ> ※日赤岐阜県支部のHPもご覧ください。

## 1 支部助成事業

### ① キックオフの会

以下に示す防災教育推進校、研究推進モニター校、青少年赤十字100周年事業推進校の指定をうけた際、あるいは青少年赤十字の新規加盟校になったことなどをきっかけに、児童生徒や教職員のみなさんを対象に、「赤十字」のこと、

「青少年赤十字の実践目標や態度目標」、「青少年赤十字のメンバーである自分たちは、具体的にどのような活動に取り組めばよいのか」等を、校長先生や担当の先生から、全校集会やお昼の放送時にお話をしていただきます。

こういった機会を「キックオフの会」と称し、児童生徒や教職員の皆さんのが赤十字や青少年赤十字への意識を高められることを願っています。

令和2年度は、新規加盟校や助成を受けられる学校27校で、約7,200名を超える児童生徒や教職員の皆さんのが赤十字について学んだり、青少年赤十字について考えたりするきっかけをもつことができました。

### ② 令和3年度防災教育推進校

青少年赤十字の実践目標の一つである「健康・安全」のもと、防災教育をとおして自然災害から青少年の健康と安全を守り、また、学校、地域、家庭における防災意識を高めるため、「まもるいのち ひろめるぼうさい(冊子)」を活用した実践や、先進的・他校の参考となるような取り組みを行ってもらえる学校を指定し、活動支援をします(1校20万円の活動助成金×2校)。

学校名	テーマ
岐阜市立厚見学園	命・生活・人生を守る防災教育
岐阜県立大垣特別支援学校	「ICTを活用した防災教育」

### ③令和3年度研究推進モニター校

青少年赤十字の実践目標の「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」に関わる様々な魅力ある活動が、加盟校においてさらに充実していくことや、県内に広まっていくことを願い、本県支部では、毎年加盟校の中から研究推進モニター校を募集しています。最近は、60校を超える学校から応募いただいている。それらの学校の中から、青少年赤十字指導者協議会役員や賛助奉仕団役員によって承認された学校(園)に対し活動助成金を交付しています(1校10万円の活動助成金×25校)。

No.	学校名	主テーマ等
1	岐阜市立鶴小学校	自分も相手も大切に思う気持ちを育み、自分にできることを考え、自分の成長を自覚し、家庭や地域に発信する。
2	岐阜市立長森西小学校	一人はみんなのためにみんなは一人のために
3	各務原市立那加第三小学校	自身の健康に興味関心をもち、生涯を通して健康を保持増進できる態度を養う。
4	瑞穂市立西小学校	「地震・防災」自分・家族・地域の人たちの命を守る方法を考えて実践する。
5	大垣市立時小学校	力を合わせやり抜く子「ふるさと時を語る子」
6	海津市立西江小学校	地域の方々の共に学び、ふるさとを誇りに思う子の育成
7	垂井町表佐小学校	まもう わたしのいのち みんなのいのち
8	神戸町立南平野小学校	体験活動をとおして、生命の大切さや思いやりや助け合いの心を育成する。
9	美濃市立美濃小学校	誰もが幸せに暮らせる地域・社会づくりに進んで取り組む力を養う。
10	美濃市立藍見小学校	自信をもってかかわり合い 考え 努力する子
11	郡上市立牛道小学校	家庭・地域と連携し、自分の命は自分で守る意識を高める防災教育
12	郡上市立大中小学校	ふるさと郡上(白鳥)を愛し、地域と共に生き・高まる学校
13	土岐市立妻木小学校	すこやか口・歯の健康指導～めざせ・歯みがき名人、歯みがきチャンピオン
14	恵那市立大井第二小学校	かしこくななくよくたくましく～向学心～
15	中津川市立下野小学校	下野花いっぱい作戦
16	下呂市立竹原小学校	自分で考え、判断し、行動する力を育むシェイクアウ訓練
17	岐阜市立岐阜中央中学校	防災に関する講話や体験等を通じて、減災のために事前に必要な準備をする力や自然災害から身を守り、被災した場合でもその後の生活を乗り切る力、進んで他の人々や地域の安全を支えることができる力等、能動的に防災に対応することができる人材を育成する。
18	岐阜市立岩野田中学校	夢や希望の実現のために、自ら動く生徒の育成
19	各務原市立緑陽中学校	「フラワーエンジェル活動」～地域とのつながりを～
20	山県市立伊自良中学校	自ら考え動き、身を守る生徒の育成
21	池田町立池田中学校	社会にふれる
22	恵那市立恵那西中学校	基本を身につけ、粘り強くやり抜く生徒
23	恵那市立恵那北中学校	タブレットを活用して内発的動機付けを図り、英語コミュニケーション能力を高める。
24	高山西高等学校	免疫力を高めて、感染症を予防しよう
25	岐阜県立揖斐特別支援学校	防災教育を通して、「自分の命を守る」という意識を高める。

### ④青少年赤十字100周年事業推進校(園)

令和4年度に青少年赤十字創立100周年を迎えることを節目に、①青少年赤十字活動の一層の理解促進・普及 ②豊かな心をもった青少年赤十字の育成強化 ③学校現場から選ばれるJRC活動の見直しと普及といった目標達成に向け、積極的に協力していただける学校を指定させていただきました(1校20万円の活動助成金×5校)。

校(園)名	テーマ内容等
養老町立笠郷小学校	子どもの育ちと学びをつなぐ園・小の交流と連携 ～コロナ禍で今自分たちに何ができるかを考える児童の育成～
大野町立東小学校	町のためにできることきれいな町きれいな川
高山市立柄尾小学校	自分の命は自分で守る意識をもち、守るための方法を正しく選択できる児童の育成
東白川村立東白川中学校	持続可能な社会をめざして
岐阜県立岐阜高等学校	国際社会のリーダーとしての「トータルパーソン」の育成に向けたボランティア活動



2021年4月1日 発行

[発行・編集] 日本赤十字社岐阜県支部  
〒500-8601 岐阜市茜部中島2-9  
TEL 058-272-3561